

英語を母語とする日本語学習者における 日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について —人為的事態の場合—

杉 村 泰

キーワード：日本語教育、英語母語話者、人為的事態、自他動詞、受身

1. はじめに

本研究は英語を母語とする日本語学習者（以下「アメリカ（米国）人日本語学習者」と呼ぶ）における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択意識について、日本語母語話者（以下「日本人」と呼ぶ）の選択と比較して論じたものである。前号の『言語文化論集』38-1では「電池が切れて時計が止まった」、「風が強くて蠟燭の火が消えた」など内発的变化や無情物の作用を表す「非人為的事態」の場合について分析した。これに対し、本稿では人が動作主となる「人為的事態」の場合について分析する。

2. 先行研究

先行研究に関しては杉村（2016b）で論じたので、本稿では割愛する。

3. 調査の概要

本研究ではアンケートによる自動詞・他動詞・受身の選択テストを利用して分析を行う。アンケートは図Aに示す12の事態にそって日英それぞれ60問作成した。日本語のアンケートは、例（1）のように被験者に格助詞「が/を」と「自動詞/他動詞/受身」の組み合わせのうち最も適当だと思うものを一つ選択させるという形式である。

（1） さあ、肉（が/を）（焼けた/焼いた/焼かれた）から食べましょう。

さらに、アメリカ人日本語学習者の母語である英語の影響を見るために、例（2）のように日本語アンケートを英語に訳したものを作成した。ただし、英語アンケートは日本語アンケートを直訳したものであるため、実際とは多少ずれる場合もある。

- (2) ① Alright, the meat is grilled, so let's eat! (自動詞的表現)
 ② Alright, I grilled the meat, so let's eat! (他動詞表現)
 ③ Alright, the meat was grilled, so let's eat! (受身表現)

以上日英各 60 問のうち、本研究では人が動作主となる「人為的事態」のうち、図 A の ④⑤⑥⑪の事態について考察する¹⁾。

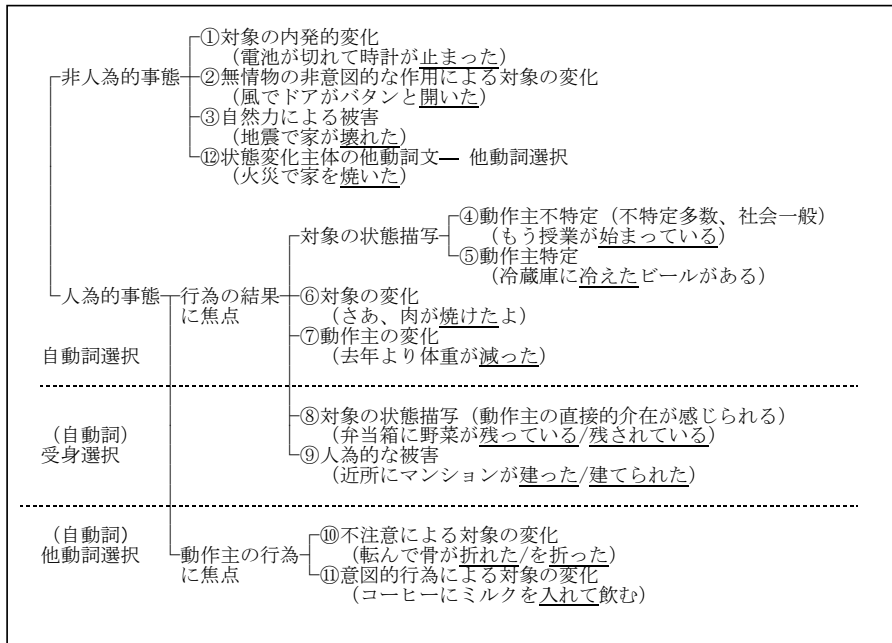


図 A 本研究における事態の分類と日本語母語話者の選択傾向

以下、本研究の被験者と調査の時期・場所について記しておく。アメリカ人日本語学習者は上級の N1 合格レベルの被験者が得られなかったため、N2～N3 合格レベル程度の学生を被験者とした。

[日本語アンケート]

・日本語母語話者

名古屋大学学部生 114 名 (2012 年 5 月 8～10 日に名古屋大学にて実施)

・英語を母語とする日本語学習者 (アメリカ人日本語学習者)

ウエスタンワシントン大学 70 人 (4 年生: 12 人、3 年生: 13 人、2 年生: 43 人、1 年生 2 人) (2014 年 2 月 11、26 日、4 月 3 日にウエスタンワシントン大学にて実施)

…全員日本語能力試験を受けていないが、ウエスタンワシントン大学の先生による

英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について

と N2~3 合格レベル程度であるとのことである)

[英語アンケート]

・英語母語話者

ウエスタンワシントン大学学部生 100 人 (2014 年 2 月 11 日、4 月 2、3 日にウエスタンワシントン大学にて実施)

以上のアンケート調査をもとに自動詞・他動詞・受身およびねじれ (「を+自動詞」または「が+他動詞」) の選択率を集計した。このうち、本稿で考察の対象とする 20 の表現をまとめると表 1 のようになる。表中の選択率は小数点以下第二位を四捨五入して示してあるため、自動詞・他動詞・受身・ねじれの合計がぴったり 100%にならないものもある。本稿では日本語の「が+受身」と「を+受身」の区別については立ち入って議論しないため、両者を合わせて「受身」とする。同様に、格助詞と他動詞のねじれについても議論の対象としないため、両者を合わせて「ねじれ」とする。また、表中の「日本人・日」は日本人の日本語アンケート回答者、「米国人・日」はアメリカ人の日本語アンケート回答者、「米国人・英」はアメリカ人の英語アンケート回答者を表す。

本稿では「ねじれ」については考慮しないため、後の議論 (図 1~図 20) ではここから「ねじれ」の回答を除外して、「が+自動詞」「を+他動詞」「が/を+受身」の合計が 100%になるように計算し直して、自動詞・他動詞・受身の選択傾向を比較することにする。

表 1 自動詞・他動詞・受身の選択テストの結果 (数字は選択率%)

	被験者	自動詞	他動詞	受身	ねじれ
事態④ (対象の状態描写・動作主不特定)	1. もう授業 (が / を) (始まって / 始めて / 始められて) いるから急ごう。				
	米国人・英	84.0	14.0	2.0	---
	米国人・日	44.3	18.6	8.6	28.6
	日本人・日	99.1	0.0	0.0	0.9
	2. この町には鉄道 (が / を) (通って / 通して / 通されて) いる。				
	米国人・英	88.0	10.0	2.0	---
	米国人・日	32.9	18.6	11.4	37.1
	日本人・日	96.5	1.8	1.8	0.0
	3. この雑誌 (が / を) 一番 (売れて / 売って / 売られて) いるよ。				
	米国人・英	93.0	3.0	4.0	---
	米国人・日	48.6	7.1	15.7	28.6
	日本人・日	96.5	0.9	2.6	0.0
	4. 都市開発でこの町の風景 (が / を) すっかり (変わった / 変えた / 変えられた) ね。				
	米国人・英	24.0	63.0	13.0	---
	米国人・日	22.9	22.9	12.9	41.4
	日本人・日	94.7	0.9	4.4	0.0

事態⑤ (対象の状態描写・動作主特定)	5. 壁に(割れた/割った/割られた)鏡が掛かっている。				
	米国人・英	37.0	21.0	42.0	---
	米国人・日	41.4	30.0	28.6	---
	日本人・日	100.0	0.0	0.0	---
	6. ドアに鍵(が/を)(かかって/かけて/かけられて)いる。				
	米国人・英	39.0	52.0	9.0	---
	米国人・日	17.1	44.3	7.1	31.4
	日本人・日	78.9	2.6	17.5	0.9
	7. 冷蔵庫によく(冷えた/冷やした/冷やされた)ビールがあるよ。				
	米国人・英	13.0	1.0	86.0	---
	米国人・日	48.6	32.9	18.6	---
	日本人・日	100.0	0.0	0.0	---
	8. ビール(が/を)5℃に(冷えて/冷やして/冷やされて)いる。				
	米国人・英	35.0	32.0	33.0	---
	米国人・日	32.9	11.4	7.1	48.6
日本人・日	29.8	32.5	36.8	0.9	
9. そのコーヒーにはもう砂糖(が/を)(入って/入れて/入れられて)いるよ。					
米国人・英	0.0	59.0	41.0	---	
米国人・日	27.1	28.6	10.0	34.3	
日本人・日	89.5	2.6	7.0	0.9	
⑤ /⑨被害	10. 彼のコーヒーには睡眠薬(が/を)(入って/入れて/入れられて)いる。				
	米国人・英	3.0	79.0	18.0	---
	米国人・日	20.0	37.1	8.6	34.3
日本人・日	51.8	1.8	46.5	0.0	
事態⑥ (対象の変化)	11. 問題(が/を)(解けたら/解いたら/解かれたら)手を挙げてください。				
	米国人・英	4.0	93.0	3.0	---
	米国人・日	15.7	31.4	8.6	44.3
	日本人・日	75.4	20.2	0.0	4.4
	12. さあ、今日の夕食のメニュー(が/を)(決まった/決めた/決められた)よ。				
	米国人・英	25.0	25.0	50.0	---
	米国人・日	30.0	17.1	14.3	38.6
	日本人・日	90.4	8.8	0.0	0.9
	13. さあ、肉(が/を)(焼けた/焼いた/焼かれた)から食べましょう。				
	米国人・英	49.0	45.0	6.0	---
	米国人・日	18.6	25.7	4.3	51.4
	日本人・日	86.0	14.0	0.0	0.0
	14. さあ、スープ(が/を)(温まった/温めた/温められた)から飲んでください。				
	米国人・英	12.0	78.0	10.0	---
	米国人・日	20.0	35.7	5.7	38.6
日本人・日	63.2	36.0	0.0	0.9	
15. さあ、お茶(が/を)(入った/入れた/入れられた)からひと休みしましょう。					
米国人・英	19.0	79.0	2.0	---	
米国人・日	20.0	47.1	5.7	27.1	
日本人・日	47.4	52.6	0.0	0.0	

⑥ / ⑪	16. さあ、ケーキ（が/を）（切れた/切った/切られた）から食べましょう。				
	米国人・英	12.0	56.0	32.0	---
	米国人・日	10.0	57.1	10.0	22.9
	日本人・日	20.2	78.9	0.9	0.0
事態⑪ (意図的 行為)	17. コーヒーにミルク（が/を）（入って/入れて/入れられて）飲む。				
	米国人・英	3.0	96.0	1.0	---
	米国人・日	5.7	58.6	4.3	31.4
	日本人・日	2.6	95.6	1.8	0.0
	18. 目が悪くなったので、眼鏡（が/を）（変わった/変えた/変えられた）。				
	米国人・英	5.0	80.0	15.0	---
	米国人・日	2.9	35.7	11.4	50.0
	日本人・日	1.8	98.2	0.0	0.0
	19. おや、髪（が/を）（切れた/切った/切られた）んだ。				
	米国人・英	1.0	90.0	9.0	---
	米国人・日	18.6	48.6	8.6	24.3
	日本人・日	1.8	98.2	0.0	0.0
	20. 電子レンジで冷えたスープ（が/を）（温まった/温めた/温められた）。				
	米国人・英	4.0	33.0	63.0	---
米国人・日	21.4	28.6	10.0	40.0	
日本人・日	5.3	90.4	4.4	0.0	

4. 事態別に見る自動詞・他動詞・受身の選択傾向

4.1 対象の状態描写を表す場合（動作主不特定）（事態④）

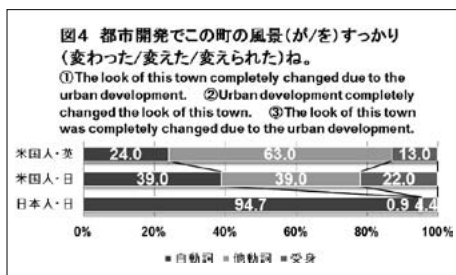
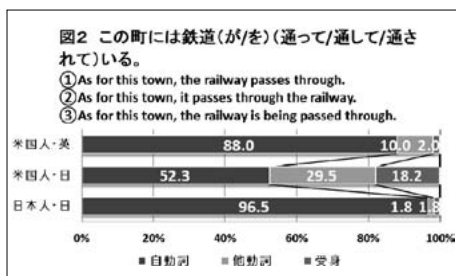
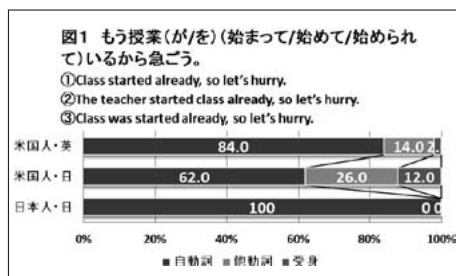
本節と次節では対象の状態描写を表す場合について論じる。ここでいう対象の状態描写を表す場合とは、人為的行為の結果、対象がそのような状態になっていることを表すもののことである。このうち、本節では動作主が不特定の場合（不特定多数、社会一般）について見る（図1～図4）。

図1の場合、授業を始めるのは先生であっても、授業時間は学校の規則で決まっており、先生の意志で決めるわけではない。また、図2の場合、鉄道を通したのは鉄道会社などであるが、特に敷設者のことに話題が及ばない限り、動作主の行為よりは対象である鉄道の存在に焦点が当たりやすい。図3と図4の場合も同様である。そのため、「授業の開始」、「鉄道の敷設」、「雑誌の売れ行き」、「町の風景の変化」など動作主が不特定で対象の状態に視点が行く場合は、動作主が背景化され、ほぼ100%の日本人が自動詞を選択している。

一方、アメリカ人日本語学習者は、図1～図3において、英語では自動詞表現の選択率が80%以上あるにもかかわらず、日本語では52.3～68.0%しかなく、相対的に他動詞や受身の選択率が上がっている。また、図4の「町の風景の変化」においては、英語で

は他動詞の選択率が63.0%と最も高く、アメリカ人日本語学習者の日本語では自動詞と他動詞の選択率が39.0%ずつとなり、自動詞の選択率が低くなっている。

ところで、N2合格レベルの韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者は、図1、図2、図4においては自動詞の選択率が75.0~96.0%と高いが、図3の「雑誌の売れ行き」においては自動詞の選択率が65%ほどと低くなっている²⁾。このように、事態①においてアメリカ人日本語学習者は、日本人だけでなく、韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者と比べても全体的に自動詞の選択率が低く、動作主の存在を意識しやすいことが分かる。



4.2 対象の状態描写を表す場合（動作主特定）（事態⑤）

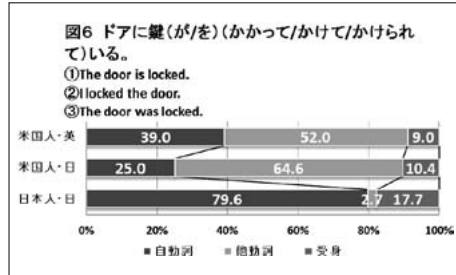
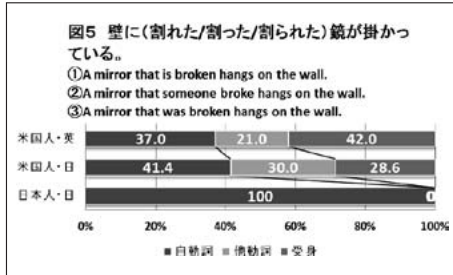
本節では対象の状態描写を表すもののうち動作主が特定の場合（動作主が不明でも誰か特定の人がいればよい）について論じる（図5~図10）。この場合も日本語では自動詞の選択率が全体的に80~100%と高い（図5~図7、図9）。しかし、アメリカ人日本語学習者は必ずしも日本人のように自動詞を選択できないため注意が必要である。

まず、図5の「割れた鏡」の場合、日本人は100%の人が自動詞を選択しているのに対し、アメリカ人日本語学習者は英語でも日本語でも自動詞の選択率が40%前後しかない。同様に図6の「鍵の施錠」の場合も、日本人は79.6%の人が自動詞を選択しているのに対し、アメリカ人日本語学習者は英語では39.0%、日本語では25.0%の人しか自動詞を選択していない。

図5や図6において、N2合格レベルの韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者の

英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について

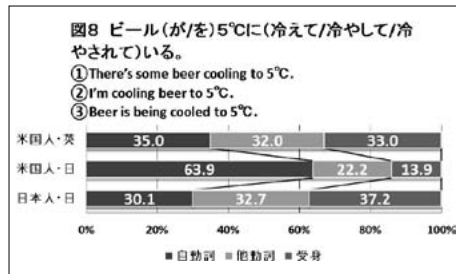
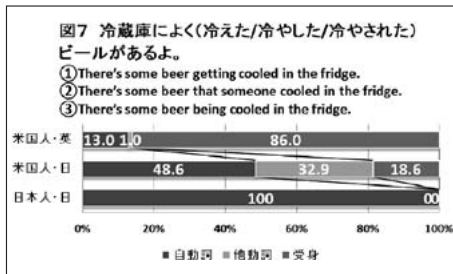
自動詞選択率は50.6～82.6%ある。このことから、アメリカ人日本語学習者は日本人だけでなく、韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者と比べても自動詞の選択率が低いことが分かる。



次にビールの冷えた状態を表す図7と図8について見る。図7の場合、日本人は自動詞の選択率が100%であるのに対し、アメリカ人日本語学習者は、英語では受身の選択率が86.0%と高く、日本語では自動詞の選択率が48.6%、他動詞の選択率が32.9%となっている。この場合、日本人は動作主を背景化して対象の存在に着目しやすいのに対し、アメリカ人日本語学習者は動作主の存在を意識しやすいことが分かる。

これに対し、図8はビールを5℃にしようとする動作主の目的意識の入るものである。この場合、日本人は自動詞、他動詞、受身の選択率がほぼ三分の一ずつになり、単に対象の存在に着目すれば自動詞、動作主の意図的行為に着目すれば他動詞、動作主の行為を感じながらも対象の存在に重点を置いた場合は受身を選択する。一方、アメリカ人日本語学習者は、英語では自動詞、他動詞、受身の選択率が日本人同様にほぼ三分の一ずつになるが、日本語では自動詞の選択率が63.9%と高くなる。

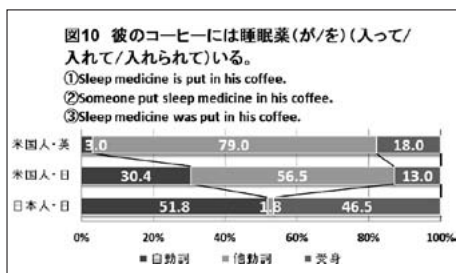
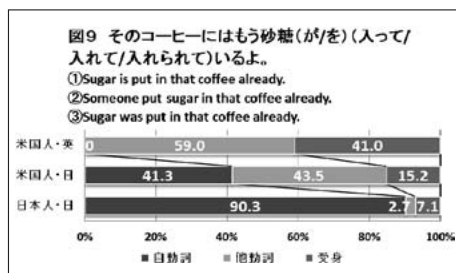
図7、図8において、N2合格レベルの韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者は、日本人同様に動作主の目的意識の入る図8の方が自動詞の選択率が低くなるが、アメリカ人日本語学習者は逆に図7の方が自動詞の選択率が低くなっている。この理由については今後検討したい。



次にコーヒーに添加物が混じった状態を表す図9と図10について見る。図9の場合、日本人は「砂糖入りコーヒー」の存在に焦点を当てて、およそ90%の人が自動詞を選択している。一方、アメリカ人日本語学習者は、英語では他動詞と受身の選択率がほぼ6対4で、日本語では自動詞と他動詞の選択率がほぼ半々となっている。この場合も、日本人は動作主を背景化して対象の存在に着目しやすいのに対し、アメリカ人日本語学習者は動作主の存在を意識しやすいことが分かる。

これに対し、図10は睡眠薬による被害の意味が感じられやすく、事態⑤と事態⑨「人為的な被害」の両者にまたがる表現である。この場合、日本人は自動詞と受身の選択率がほぼ半々となり、単に睡眠薬の混入に着目すれば自動詞を選択し、動作主の行為による被害の意味を意識した場合は受身を選択する。一方、アメリカ人日本語学習者は、英語では他動詞の選択率が79.0%と高く、日本語では自動詞と他動詞の選択率がおよそ1対2になっている。

図9、図10を比べると、日本人は図9では対象の存在に着目して自動詞を選択し、図10では対象の存在に着目して自動詞を選択することもあれば、被害の意味に着目して受身を選択することもあるというように、選択傾向に違いが見られる。しかし、アメリカ人日本語学習者は両者の違いがさほど見られない。この点において、N2合格レベルの韓国人日本語学習者と中国人日本語学習者も、図9、図10の選択傾向にさほど違いが見られなかった。このことから、日本語学習者にとって図9と図10は同じタイプの表現として捉えられていると考えられる。

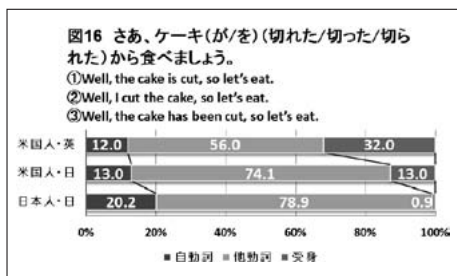
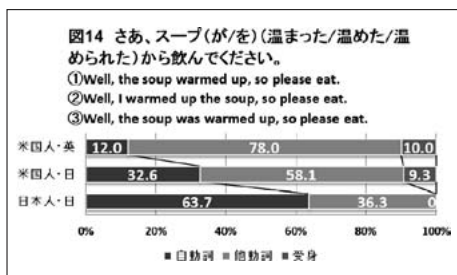
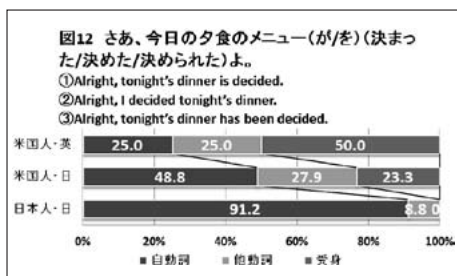
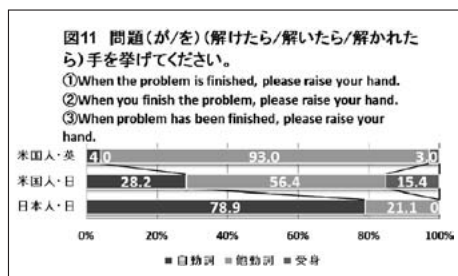


4.3 行為の結果による対象の変化を表す場合 (事態⑥)

本節では行為の結果による対象の変化を表す場合 (事態⑥) について論じる (図11～図16)。これらは動作主の意志的行為によって対象の変化が生じることを表す表現である。この場合、日本人は自動詞を取りやすい場合もあれば、他動詞を取りやすい場合もあれば、どちらも取りやすい場合もあるため、日本語学習者にとって自・他・受身の選択がとりわけ難しい項目となっている。

図11～図15において、全体的に英語では自動詞の選択率が低く、日本人の日本語で

は自動詞の選択率が高く、アメリカ人日本語学習者の日本語では自動詞の選択率が両者の中間的な数値になっている。事態⑥の場合、日本人は「お茶の葉にお湯を注ぐ（人為作用）→お湯による茶葉からのエキスの抽出（自然作用）」のように「人為作用→自然作用」という二つの過程に分解でき、特に目的意識に焦点を当てなければ自動詞を選択し、目的意識に焦点を当てれば他動詞を選択する（詳細は杉村（2013a,b）参照）。これに対し、アメリカ人日本語学習者は事態⑥の人為作用に着目して他動詞の選択率が高くなる。この点において韓国人日本語学習者や中国人日本語学習者も同様であり、事態⑥は母語にかかわらず学習者に共通して難しい項目であることが分かる。



最後に、図16の「ケーキのカット」について見る。この場合、「問題の解決」、「メニューの決定」、「焼き肉」、「スープの加熱」、「お茶くみ」の場合とは異なり、日本人の78.9%が他動詞を選択しているという点で特徴がある。「ケーキのカット」の場合に自動詞が選択されにくいのは、動作主がケーキにナイフを当てた後、ケーキが自然に切れることは通常ないためである（杉村（2013a,b）参照）。この点で図16の事態は、事態⑥と

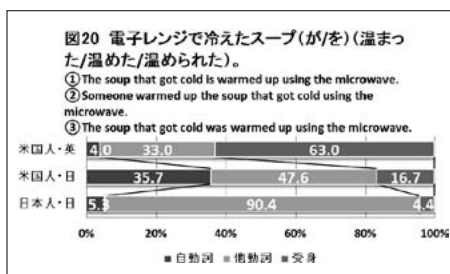
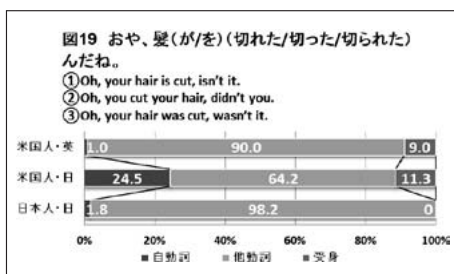
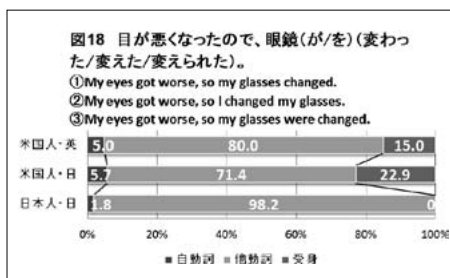
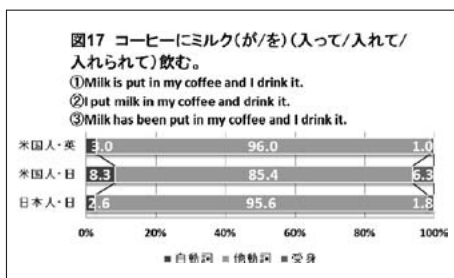
次節の事態⑩「動作主の意図的な行為」の両者にまたがる表現であると思われる。また、日本人の20.2%は自動詞の「切れる」を選択しているが、おそらくこれは可能の意味を読み込んで回答したものと考えられる。一方、アメリカ人日本語学習者も他動詞の選択率が74.1%以上と高い。これは動作主の意志的行為によるものであれば、他動詞を選ぶようにするためであると考えられる。

4.4 動作主の意図的な行為を表す場合（事態⑩）

本節では動作主の意図的な行為を表す場合（事態⑩）について論じる。動作主の意図的な行為とは「コーヒーにミルクを入れる」のように動作主が何らかの目的のために当該の行為を行うことを表すものである。この場合、図17～図20のように、日本人はいずれの場合も他動詞の選択率が高くなる。

一方、アメリカ人日本語学習者の日本語は、図17～図18では他動詞の選択率が71.4～85.4%と高い。この場合、英語でも動作主の意図的な行為を表す場合は他動詞の選択率が80%以上と高く、日本語でもその感覚で捉えられていることが分かる。ただし、図18では英語も日本語も受身の選択率が20%前後現れている。これに対し、図19の場合、英語では他動詞の選択率が90.0%と高いものの、アメリカ人日本語学習者の日本語は他動詞の選択率が64.2%しかなく、自動詞の選択率が24.5%もある。また、図20の場合、英語では他動詞の選択率は33.0%しかなく、受身が63.0%と高くなっている。これは主語を特定せず someone としたためかもしれない。この場合、アメリカ人日本語学習者の日本語は自動詞が35.7%、他動詞が47.6%、受身が16.7%となっており、他動詞の選択率は日本人ほど高くなく、自動詞の選択率が高めになっている。

事態⑩の場合、2級合格レベルの韓国人日本語学習者と中国人日本語学習者は、図17や図20では他動詞の選択率が高い。しかし、図18では中国人日本語学習者の自動詞の選択率が25.4%、図19では韓国人日本語学習者と中国人日本語学習者の自動詞の選択率が21.7～24.2%と、他動詞だけでなく自動詞もいくらか選択されている。このことから、図17～図20の場合、日本人にとっては同じ動作主の意図的な行為を表す表現に見えても、各言語話者にはヴォイスの点で異なるタイプの表現として捉えられている可能性がある。本稿では事実の指摘の域を出ないが、今後このようなタイプの違いについて明らかにしていきたい。



5. まとめ

最後に本稿で論じた事態④⑤⑥⑩の概要を整理しておく。

- ・対象の状態描写を表す場合（動作主不特定）（事態④）

日本人は自動詞の選択率がほぼ100%と高い。一方、アメリカ人日本語学習者は自動詞の選択率が39.0~68.0%と日本人より低めになっている。

- ・対象の状態描写を表す場合（動作主特定）（事態⑤）

日本人は全体的に自動詞の選択率が80~100%と高くなるが、「5℃に冷やしたビール」のように目的意識が入ると自動詞、他動詞、受身のいずれも選択されるようになり、「睡眠薬入りコーヒー」のように被害の意味が入ると自動詞も受身も選択されるようになる。一方、アメリカ人日本語学習者は、全体的に自動詞の選択率が50%以下と低くなる。また、日本人と違って「5℃に冷やしたビール」のように目的意識が入る場合や「睡眠薬入りコーヒー」のように被害の意味が入る場合でも、そうでない場合とさほど選択率が変わらないという点で特徴がある。

- ・行為の結果による対象の変化を表す場合（事態⑥）

日本語では事態を「人為作用→自然作用」という二つの過程に分解し、動作主の目的意識が強い場合には他動詞を選択し、そうでない場合には自動詞を選択する。これに対し、アメリカ人日本語学習者にはこのような複雑な捉え方が難しく、動作主の意志的行為によるものであれば他動詞を使うという単純な捉え方をしやすいため、全体的に日本人に比べて他動詞の選択率が高くなる。

・動作主の意図的な行為を表す場合（事態⑩）

日本人は他動詞の選択率が90%以上と高いのに対し、アメリカ人日本語学習者は他動詞の選択率が一番高いものの、場合によって自動詞や受身の選択率も25~35%程度現れている。

なお、杉村（2016c）では同じくアメリカ人日本語学習者の自・他・受身の選択のうち「動作主の不注意による対象の変化を表す場合」（図Aの事態⑩）について論じている。これも合わせて日本人中国語学習者の自・他・受身の選択について考えたい。

付記：本稿は平成25-27年度日本学術振興会科学研究費基金（挑戦的萌芽研究）「日本語学習者の自動詞・他動詞・受身の選択意識と母語転移に関する実証的研究」（研究代表者：杉村泰、課題番号25580111）による研究成果の一部である。

注

- 1) 事態⑩については杉村（2016b）でも論じたが、比較のために本稿の4.4節で再度取り上げる。
- 2) 杉村（2014c）では台湾人日本語学習者のN1、N2、N3合格レベルの自他受身選択の違いについて論じた。韓国人日本語学習者および大陸の中国人日本語学習者のN1、N2合格レベルの自他受身選択については、今後論じる予定である。

参考文献

- 杉村 泰（2013a）「対照研究から見た日本語教育文法 —自動詞・他動詞・受身の選択—」『日本語学』2013年6月号・第32巻第7号（通巻410号），明治書院，pp.40-48
- 杉村 泰（2013b）「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について —一人為的事態の場合—」『日本語／日本語教育研究』[4] 2013，日本語／日本語教育研究会・ココ出版，pp.21-38
- 杉村 泰（2013c）「中国語話者の日本語使用に見られる有対動詞の自・他・受身の選択 —被害や迷惑の意味を表す場合—」『漢日語言対比研究論叢』第4輯，漢日対比語言学研究（協作）会編・北京大学出版社，pp.275-286
- 杉村 泰（2013d）「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について —動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』第26号，名古屋大学言語文化研究会，pp.153-170
- 杉村 泰（2014a）「中国語母語話者における自動詞、他動詞、受身の選択 —一人為性に対する認識の違い—」『日語教育与日本学研究 —大学日語教育研究国際研討会論文集（2013）—』，華東理工大学出版社，pp.6-11

英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について

- 杉村 泰 (2014b) 「延辺大学生における日本語の自・他・受身の選択 —中国語母語話者と中朝バイリンガルの比較—」『中朝韓日文化比較研究叢書 日本語文化研究』 第三輯 (上), 延辺大学出版社, pp.548-554
- 杉村 泰 (2014c) 「台湾人日本語学習者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について」『銘傳日本語教育』 第 17 期, 銘傳大学教育暨応用語文学院応用日語学系出版, pp.67-91
- 杉村 泰 (2014d) 「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について —非人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』 第 36 巻第 1 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.31-45
- 杉村 泰 (2014e) 「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について —動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』 第 28 号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.145-156
- 杉村 泰 (2015a) 「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について —人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』 第 36 巻第 2 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.47-62
- 杉村 泰 (2015b) 「日・中・韓・ウズベク語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択」『東アジア日本語・日本文化研究』 第 19 集 特別号, 東アジア日本語日本文化研究会, pp.1-18
- 杉村 泰 (2015c) 「クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について —非人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』 第 37 巻第 1 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.31-44
- 杉村 泰 (2015d) 「クメール語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について —動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』 第 29 号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.105-120
- 杉村 泰 (2016a) 「クメール語を母語とする日本語学習者における中国語の自動詞・他動詞・受身の選択について —人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』 第 37 巻第 2 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.49-62
- 杉村 泰 (2016b) 「英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について —非人為的事態の場合—」『名古屋大学言語文化論集』 第 38 巻第 1 号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.3-16
- 杉村 泰 (2016c) 「英語を母語とする日本語学習者における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について —動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』 第 30 号, 名古屋大学言語文化研究会, pp.5-20